



金田明夫 水崎綾女 内田朝陽 佐藤祐基 高柳絢子 大方斐紗子 若松武史

2014年10月2日<木>→26日<日> 東京芸術劇場 シアターウエスト

10月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
14時	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
19時	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

開場は開演の30分前。
※10月8日(水)は撮影用カメラが客席に入ります。※ポスト・パフォーマンス・トークは決定次第、ホームページで紹介いたします。本公演のチケットをお持ちの方は、ご観覧できます。

◎前売開始：2014年8月9日<土>

◎料金 (全席指定・消費税込み)

一般……………5,600円

25歳以下割引……………3,000円 (枚数制限あり)
(要証明書提示。ふれいす・東京芸術劇場ボックスオフィス・チケットぴあ店舗にて取り扱い)

中高生割引……………1,000円 (枚数制限あり)
(要学生証提示。ふれいす・東京芸術劇場ボックスオフィスにて取り扱い)

当日券……………開演の60分前より販売。

★車椅子席のご案内

ご利用希望の方は3日前までに、ふれいす(Tel.03-5468-8113 平日11時～18時)にお申込みください。

★キッズルームのご案内

ご観劇日1週間前までに、下記まで要予約。(定員あり)
生後4カ月～1歳児＝2,160円 2～6歳児＝1,080円
お申込・お問い合わせ：芝劇キッズルームミュージズ Tel.03-3981-7003

☆東京以外の公演予定 <チケットのお問い合わせは各会館へ>

9月28日(日)埼玉・富士見市民文化会館キラリふじみ／10月29日(休)愛知・穂の国とよはし芸術劇場PLAT／11月1日(日)宮城・えぞこホール(仙南芸術文化センター)／11月3日(月)愛知・パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)／11月8日(土)兵庫県立芸術文化センター／11月13日(休)栃木・足利市民プラザ／11月15日(土)滋賀・びわ湖ホール／11月18日(火)山形・川西町フレンドリープラザ／11月20日(木)新潟市民芸術文化会館(りゅーとぴあ)／11月22日(土)若手・盛岡劇場／11月24日(月)福岡・北九州芸術劇場／11月26日(日)島根県芸術文化センター「グラントウ」／11月29日(出)長野・まつもと市民芸術館／12月6日(土)神奈川・湘南台文化センター／12月9日(火)北海道・北広島市芸術文化ホール／12月11日(休)北海道・たかすメロディーホール

◎お問い合わせ

二兎社 Tel.03-3991-8872 (平日10:00～18:00)
http://www.nitoshia.net

◎チケット取り扱い

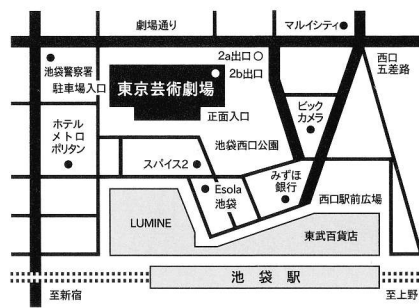
ふれいす……………03-5468-8113 (平日11:00～18:00)
※ただし、8月9日(土)は10:00～18:00受付
http://www.place-net.co.jp

東京芸術劇場……………0570-010-296 (休館日を除く10:00～19:00)
ボックスオフィス
http://www.geigeki.jp/t/ (PC)
http://www.geigeki.jp/i/t/ (携帯)

チケットぴあ……………0570-02-9999 (Pコード: 437-474)
http://pia.jp/t/ (PC&携帯)

e+(イープラス)……………http://eplus.jp/nitoshia/ (PC&携帯)
※パソコン画面・Famiポートで座席が選べます。

ローソンチケット……………0570-084-003 (Lコード: 37217)
0570-000-407 (オペレーター対応)
http://l-tike.com (PC&携帯)



東京芸術劇場

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-8-1 Tel.03-5391-2111
[アクセス] JR・東京メトロ、東武東上線、西武池袋線池袋駅西口より徒歩2分。
池袋駅地下通路の2b出口で直結しています。

先日、団子坂で歩く鷗外を見かけました。ちょっと意外な印象でした。げっそりと痩せ、身体は前のめりに力なく傾き、そのくせ妙に早足なんです。タタタタとつんのめるようにやって来ては、すぐタタタと消えてしまう。
お化けかって？ いえ、確かに生きている鷗外です。鷗外記念館の小さなモニターの中にですけど。59歳、死の10カ月ほど前の姿です。訪欧から帰国した皇太子(後の昭和天皇)を横浜に出迎えたら、撮影中のニュース映画にたまたま写ってしまったものらしい。鷗外は陸軍軍医の最高職を勤め上げた高級官僚でもあったので、公務における「コマですね。参列者に混じって歩く鷗外には、撮られているという意識がない。そのせいか、カメラに向かってポーズしたときのような威厳が感じられません。身体も弱ってたんでしょうね。何せ、前のめりのタタタタですから。
でも、この歩き方は晩年に限ったものではないのかも。鷗外といえば、胸を張り堂々と歩くイメージでしたけど、ひょっとして若い頃から「前のめりのタタタタ」だったような気もしてくるんです。
だって、猛烈なスケジュールだったはずですよ。朝は軍服にサールを下げ陸軍省に赴き、日暮れて帰れば、「パッパ！」と飛んでくる子どもたち、絶

え間ない来客。執筆はどうしたって深夜になり、書斎の灯が消えるのは明け方。
精神的にはさらにハードだったでしょうね。日本が日清・日露戦争を経て第二次世界大戦に向かうとする時代に、軍職と文学を両立させなきゃならなかったのは。
富国強兵を目指す国で必ず、言論・思想・表現の自由を抑圧するじゃないですか。現に鷗外も小説の発禁処分を受け、憤慨してましたよね。同時に彼は、国家に絶対的な忠節を誓う軍職者でもありました。この難しいバランスをよくも生き抜いてみせたものです。
「ねえ、本音はどうだったの？」と、聞きたくなくてしまいます。表現者の端くれとして、特に最近そう思います。答えが返ってくるはずもないので、自分で書いてみることにしました。
ということで、鷗外が最も危ういバランスを生きたと思われる、5カ月間の話です。
作・演出 永井愛
劇作家・演出家 二兎社主宰。
主な作品 〇「こんばんは、父さん」(シクマルマザーズ)「かたりの椅子」
〇「歌わせた男たち」〇「書く女」〇「片づけた女たち」
〇「こんにちは、母さん」〇「坂の殺意」〇「カズオ」
紀伊國屋演劇賞個人賞・鶴屋南北戯曲賞・岸田國士戯曲賞
読売文学賞・朝日舞台芸術賞・元松代賞などを受賞。

美術 大田創 照明 中川隆一 音響 市来邦比古 衣裳 竹原典子 舞台監督 増田裕幸 演出助手 鈴木修
ヘアメイク 清水美穂 宣伝美術 マッチアンドカンパニー+森井耕作 宣伝写真 須藤秀之 化粧品協力 Bli Cosme
劇務 渡邊妙子(ふれいす) 制作 安藤ゆか 山田茜音
提携：東京芸術劇場 [公益財団法人東京都歴史文化財団] 助成：芸術文化振興基金

二兎社公演 39
鷗外の怪談
二兎社+公立劇場共同制作
富士見市民文化会館キラリふじみ／パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)
盛岡市文化振興事業団(盛岡劇場)／えぞこホール(仙南芸術文化センター)